

ライチョウの域内保全 ―孵化後の雛一ヶ月間 ケージ飼育による保護手法の確立―

中村 浩志(信州大学)



東大宇宙線観測所

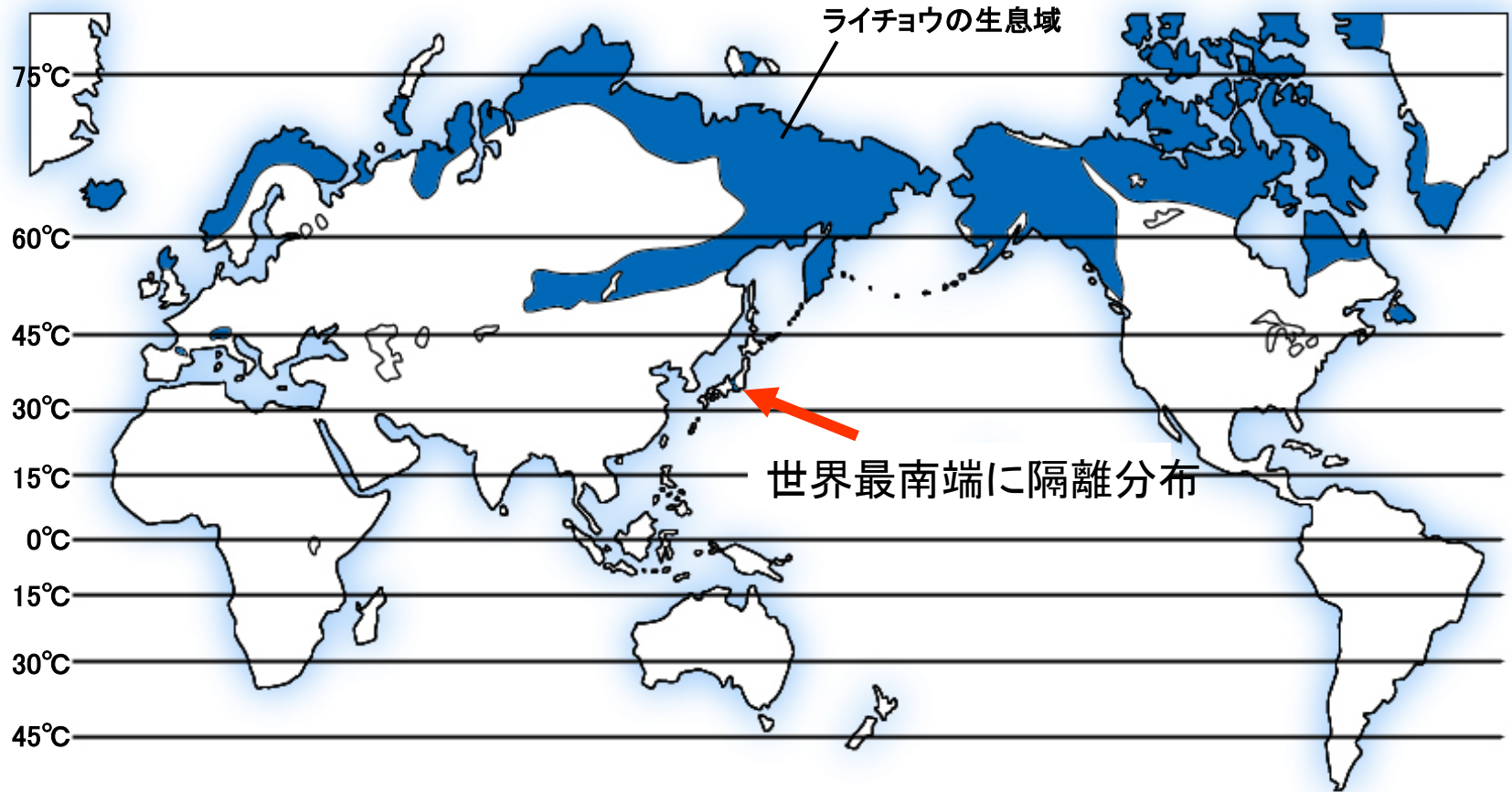
日本では本州中部の
高山のみに生息

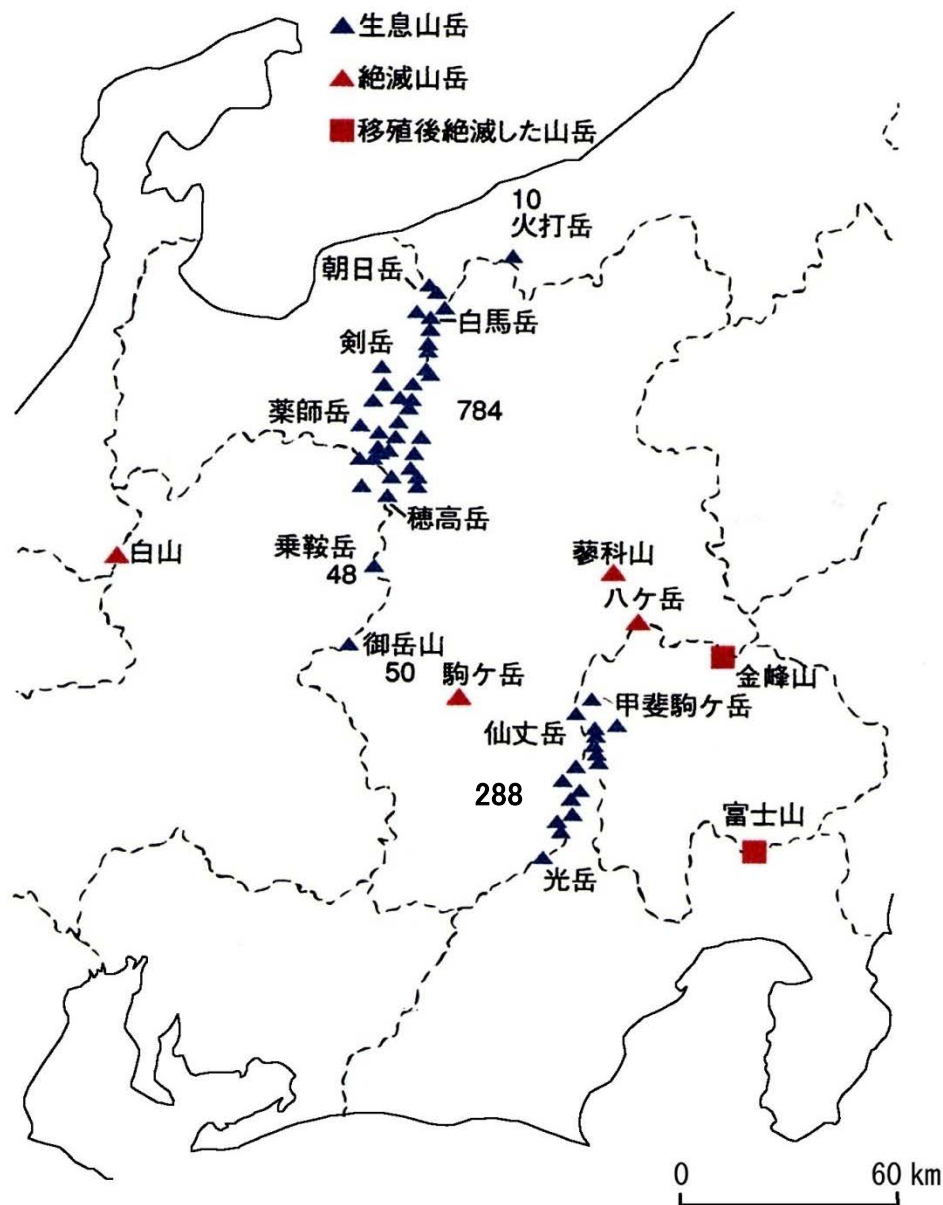


国の特別天然記念物
絶滅危惧種 IB類(ED)

冬羽のライチョウの雌雄（乗鞍岳 4月中旬）

ライチョウの世界分布





羽田他(1985)により、ライチョウの生息数は、**約3,000羽**であることが20年以上かけた調査により明らかにされた。

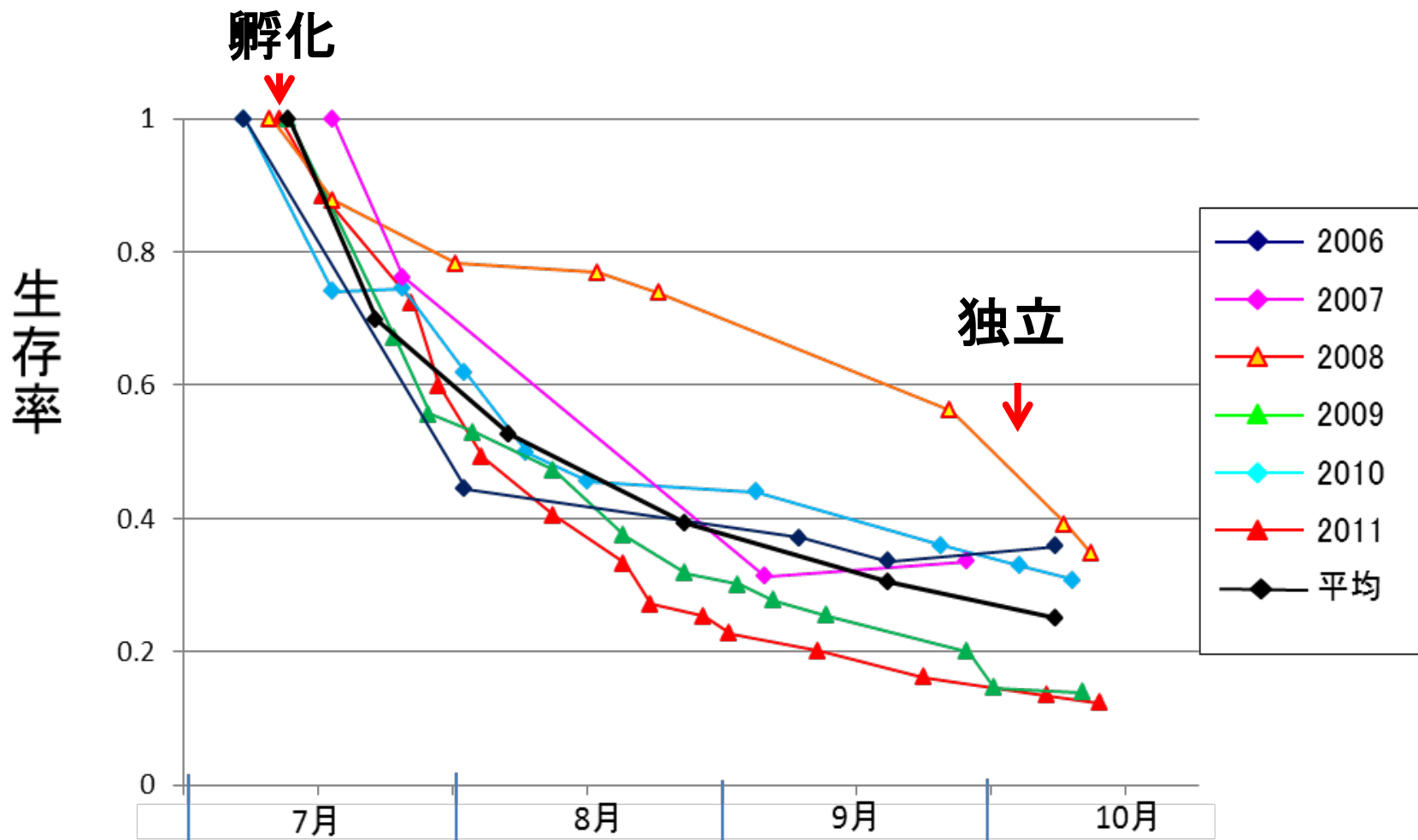
ライチョウの生息山岳と推定繁殖つがい数

ライチョウを取り巻くさまざまな問題

- 各地の山岳での最近の数の減少
特に南アルプス
- 低山動物の高山への進出
天敵・・・・・・キツネ、テン、ハシブトガラス、
チョウゲンボウ
植生の破壊・・・ニホンザル、ニホンジカ、
キツキノワグマ、イノシシ
- 少ない個体数、少ない遺伝的多様性
山岳ごとに遺伝的隔離
- 地球温暖化問題



乗鞍岳では2001年からライチョウの個体群研究が行われている



孵化から独立までの雛の生存率の年比較

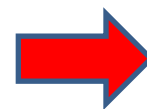


孵化時期は**梅雨の時期**

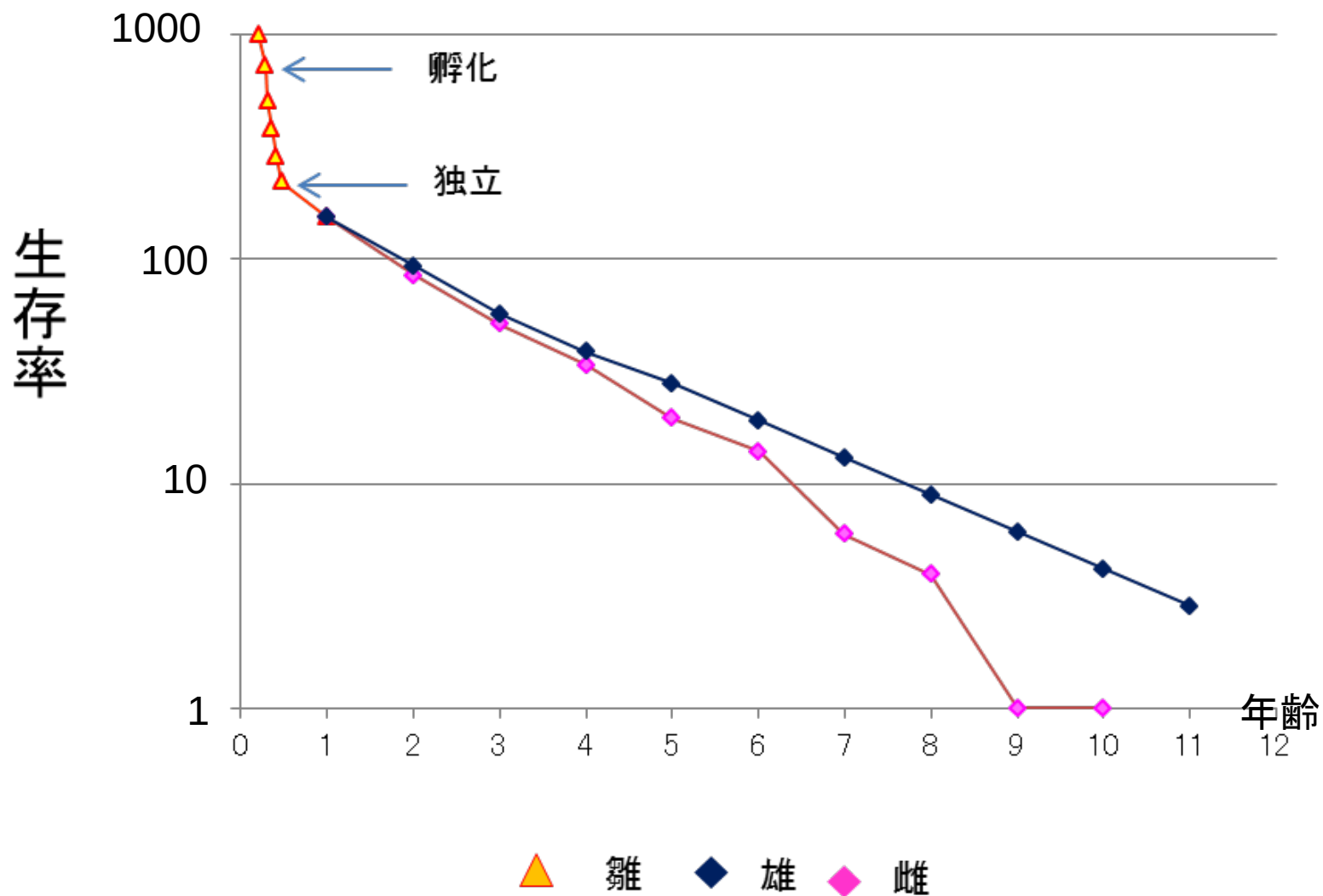
孵化後1か月の生存率が特に低い

独立直前までの生存率は平均で**30.5%**

ただし、**年によって**生存率には**大きな差**



天候が影響している



乗鞍岳のライチョウの生存曲線

ライチョウのケージ内現地飼育の目的

- 日本のライチョウは、一腹卵数平均5.76卵で、鳥の中では多産である。しかし、孵化後1ヶ月間の死亡率が非常に高い。そのため、この間をケージ内で飼育し、雛が体温調節が可能になり、十分飛べるようになってから放鳥することで、雛の初期死亡率をなくす。
- ケージ飼育方法を確立し実用化した後
 - ①個体数が減少している山岳での数の減少をくい止める。
 - ②すでに絶滅した山岳での繁殖個体群の復活。
 - ③人工増殖のため動物園等で飼育する個体の確保。



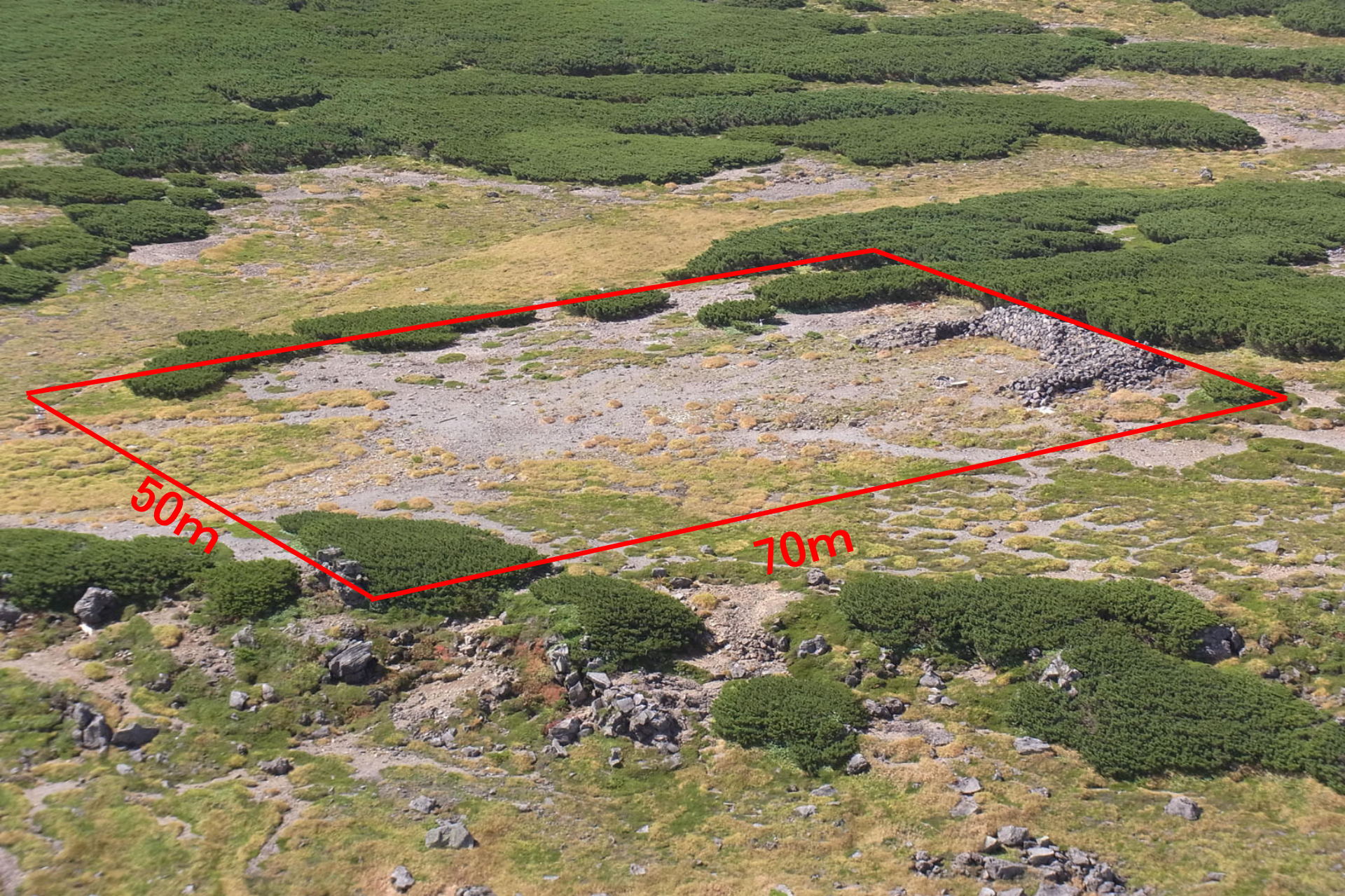
雛を育てる雌親（7月）



孵化後1ヶ月の雛と雌親の家族



乗鞍岳 東大宇宙線観測所 ケージ設置予定地 (赤○)



摩利支天岳から見たケージ設置場所

検討委員会の設立 2011年

関係する機関で構成

環境省 自然環境局 野生生物課
環境省 長野県自然環境事務所
文化庁 記念物課
林野庁 中部森林管理局 指導普及課
林野庁 中部森林管理局 中信森林管理署
林野庁 中部森林管理局 飛騨森林管理署
岐阜県環境生活部清流の国ぎふづくり推進課
岐阜県教育委員会
岐阜県高山市教育委員会
長野県 環境部 自然保護課
長野県教育委員会
市立大町山岳博物館
信州大学教育学部 生態研究室

第1回会議:2011年 7月12日 会議と現地視察
第2回会議:2011年10月19日 会議と試作ケー
の点検

試験飼育のためのケージ設置場所

乗鞍岳 東大宇宙線観測所の敷地

理由

- 1 乗鞍の個体群は安定している
- 2 標識された個体群である
- 3 古いタイプと新しいタイプの両ハプロタイプを持つ
- 4 車で現地まで行ける
- 5 ほぼ平らな地形
- 6 観光客の目に触れない場所
- 7 宿泊施設に隣接している

東大宇宙線観測所 肩ノ小屋

当面3年間の予定

1年目(2011)

事前調査 実施計画の検討 ケージの試作

2年目(2012)

事前調査 ケージの設置とケージへの誘導の試み

3年目(2013)

1ヶ月間ケージ内飼育の実施

2012年6月 東大宇宙線観測所
に設置された飼育ケージ





2012年8月下旬にケージに誘導されたライチョウ家族

現地ケージ飼育方法の概要

- 孵化直後の家族を人に馴らし、ケージに**誘導**
- 馴れに応じケージ内飼育の時間を長くする
- ケージ内での餌は、ケージ内で得られる餌と持ち込んだ現地の餌 **細菌・ウイルス感染の回避**
- ケージ内の餌が少なくなり、汚れが生じたら隣のケージに移す **1ケージ10日間ほど飼育**
- 1ヶ月たち雛が十分飛べるようになったら、家族をケージの外に放鳥する

不足する餌等の補充方法

餌補充の原則

現地の餌で補充する **細菌・ウイルス感染防止**

餌の補充方法

1. ケージ設置予定地への草本植物の播種
2. プランターに播種し育てた草本植物の提供
3. プランターに植栽した矮性低木の提供
4. プランターに植栽した花の咲く植物の提供

ヒナが食べる昆虫の確保

その他

1. ハイマツの枝のケージ内設置



第12回国際ライチョウシンポジウム(IGS2012)

7月20日～24日

松本開催 松本市長の挨拶



IGS2012 大会後 乗鞍岳でのケージ観察



IGS2012 松本大会後の フィールドトリップ1(乗鞍岳・立山)



**IGS2012 松本大会後のフィールドトリップ 2
(北アルプスルプス 表銀座コース)**



立山でのライチョウ家族の観察 IGS2012

来年の2013年、この3個のケージで
ライチョウの家族の飼育を試みる。



乗鞍岳 東大宇宙線観測所に設置された鉄製と木製のケージ

